

# 事業所における自己評価結果(公表)

## 一児童発達支援 職員一

公表日:2020年2月29日

事業所名:リアツタ児童発達支援事業 みらころの杜

チェック項目		はい	いいえ	意見	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
1.	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	療育スペースは広く、また、部屋を2つに分けられるためそれぞれ適切な療育を提供することができている。	支援内容や活動内容によって2つの部屋を使い分けしている。 部屋のスペースが広いため、運動活動等も取り組むことが出来ている。	
2.	職員の配置数は適切である	5	0	今は適切だが今後小学校や幼稚園の送迎が増えることにより、足りなくなるかもしれない。		職員の勤務時間等の設定を行ない、学校送迎等対応している。
3.	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	もっとカードや写真等を使って児童にわかりやすく伝えられる方法を使っていく必要がある。	2施設あり、1施設はバリアフリーになっているため、肢体不自由児等の支援が必要な児童はその施設に通所している。 児童に安全な療育環境を提供できるよう、見守りをしやすい環境やマットを敷いて対応している。	視覚支援が必要な児童に対しての最善の環境を提示できるよう環境を改善していきます。
4.	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	1	掃除の行き届かないところもあり、もう少し、アルコール等で毎日除菌をしたほうが良いと思う。	感染症の流行の際にはしっかりと予防策、除菌を行っています。	日頃から掃除等徹底し、利用児童が健康的に過ごすことが出来るよう、清潔な環境を提供していきます。
5.	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0		管理者・責任者を中心に、正職員の業務終了時に10～20分程度の振り返りを行ない、次回の業務につなげています。パート職員は、出退勤時に情報共有を行っています。	
6.	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		年1回評価表による事業所の評価を行ない、業務改善を行っている。	

7.	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	ホームページは、現在更新中であり今後も公開していく事ができる。	ホームページがあることを知らない職員・保護者がいるため、更新が終わったら通信物等を通じ連絡を行う。また、SNSを使用し公開も検討中。
8.	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者の評価を頂けるよう、社内他事業部の職員等に療育の評価を行っていただきたいと考えています。
9.	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	月1回の学習会と年に数回の外部研修を行う。	
10.	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	定期的に保護者との面談や電話連絡等を行ない、アセスメントを行っている。送迎担当職員によるニーズの把握を行い職員間で共有している。相談支援事業所等との統一した支援が出来るような支援計画を作成している。	
11.	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4		現在アセスメントツールはありませんでしたので、今後作成し対応していきます。
12.	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等の内容やガイドラインの内容を参考に、支援内容を設定している。
13.	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	子どもの能力別でクラスを分けそれぞれに適切な支援を行っていきたいが今はできていないと思う。	障害や特性等の児童にあった療育内容を設定し、場合に応じて集団・少人数・個別の療育を行っていく。

14.	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0		集団指導担当の指導員が大まかに決めた活動を職員間で意見を出し立案している。	
15.	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	3	児童が集中できるよう常に変化や工夫が必要 前回話し合ったため、今後工夫していく 固定されつつあったのでプログラム立案のチームで話し合いを行ない改善しつつあるところです。		
16.	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0			
17.	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3			前日の打ち合わせをしっかりと行ない、打ち合わせに参加できない職員には翌朝説明し共有する。
18.	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	打ち合わせをすることで今日あったことを周知することもできて、反省点も次回に生かしています。		
19.	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0			
20.	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0			
21.	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3			担当者会議等開催時には児童発達支援管理責任者が出席しています。
22.	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	2			各関係機関との連携した支援を行うことができています。

23.	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	0			
24.	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	1			
25.	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0		入園時に必要に応じ、利用児童の現在の状況をまとめた書類を作成し、共有を行っている。	
26.	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0			
27.	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	今後管理者が児童発達支援センターとの連携を深め積極的に相談していくようにする。		
28.	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	2	少ないが、児童センターや市の機関を使って活動する機会があり、今後はもっと広報なども使いどんどんと参加していく予定です。		
29.	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4			開催情報を把握し、機会がありましたら参加していきたいです。
30.	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0			

31.	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	4			現在は行っておりませんが、必要であれば保護者懇親会等開催時に情報提供等を行ない支援していきます。
32.	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0			
33.	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0			
34.	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0			
35.	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	クリスマス懇親会なども開催しているので、保護者同士が顔を合わせる機会は設けています。		父母の会に参加できる機会がありましたら、積極的に参加していきたいです。
36.	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0			
37.	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0			
38.	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0			

39.	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0			
40.	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4			行事企画を行ない、招待できるものがあれば開催したいと思います
41.	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	保護者に周知する事が出来ない為、今後HPを使って行っていく。		
42.	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0			
43.	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1	持病や服薬は把握しているが薬の名前や予防接種等までは確認できていない。 自宅でどのような服薬があるのかを全職員が把握できているわけではないと思う。		介舟等のアプリを使用し全職員が把握できるよう取り組みます。
44.	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	子どものアレルギーを把握しているが、医師の指示書に基づいているわけではない。		医師の指示書等は管理できていませんが、保護者や看護師と連携し、児童の体調管理を行っています。
45.	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0			
46.	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0			
47.	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	計画に記載はできていない。		契約時や計画の説明時に口頭で保護者に対し説明を行ない、了承を頂いています。

